

アモス書

Amos

旧約聖書

第1章

- 1 テコア出身の牧者の一人であったアモスのことば。これはユダの王ウジヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代、あの地震の二年前に、イスラエルについて彼が見た幻である。
- 2 彼は言った。主はシオンからほえ、エルサレムから声をあげられる。羊飼いの牧場は乾き、カルメルの頂は枯れる。
- 3 主はこう言われる。「ダマスコの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが鉄の打穀機でギルアデを踏みにじったからだ。
- 4 わたしはハザエルの家に火を送る。その火はベン・ハダドの宮殿を焼き尽くす。
- 5 わたしはダマスコのかんぬきを打ち壊す。王座に着いている者をアベンの谷から、王笏を持っている者をベテ・エデンから断つ。こうしてアラムの民はキルへ捕らえ移される。—主は言われる。」
- 6 主はこう言われる。「ガザの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民として捕らえ移し、エドムに引き渡したからだ。
- 7 わたしはガザの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。
- 8 わたしは、王座に着いている者をアシュドデから、王笏を持つ者をアシュケロンから断つ。わたしはエクロンに手を向け、ペリシテ人の残った者は滅びる。—神である主は言われる。」
- 9 主はこう言われる。「ツロの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民としてエドムに引き渡し、兄弟の契りを覚えていなかったからだ。
- 10 わたしはツロの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。」
- 11 主はこう言われる。「エドムの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが剣で自分の兄弟を追い、あわれみを断ち、いつまでも怒り、どこまでも激しい怒りを保ち続けたからだ。
- 12 わたしはテマンに火を送る。その火はボツラの宮殿を焼き尽くす。」
- 13 主はこう言われる。「アンモン人の三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがギルアデの妊婦たちを切り裂いて、自分の領土を広げたからだ。
- 14 わたしはラバの城壁に火を放つ。その火はその宮殿を焼き尽くす。戦いの日の、ときの声のうちに、つむじ風の日の突風とともに。
- 15 彼らの王は、その高官たちとともに捕囚の身となる。—主は言われる。」

第2章

- 1 主はこう言われる。「モアブの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼がエドムの王の骨を焼いて灰にしたからだ。
- 2 わたしはモアブに火を送る。その火はケリヨテの宮殿を焼き尽くす。モアブは、どよめきのうちに、ときの声と角笛の音のうちに死ぬ。
- 3 わたしはさばく者を町の真ただ中で滅ぼし、そのすべての高官たちを彼とともに切り殺す。—主は言われる。」

- 4 主はこう言われる。「ユダの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが主のおしえを捨てて、その掟を守らず、先祖がつき従ったまやかしものが彼らを惑わしたからだ。
- 5 わたしはユダに火を送る。その火はエルサレムの宮殿を焼き尽くす。」
- 6 主はこう言われる。「イスラエルの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが金と引き換えに正しい者を売り、履き物一足のために貧しい者を売ったからだ。
- 7 彼らは、弱い者の頭を地のちりに踏みつけ、貧しい者の道を曲げている。子とその父が同じ女のもとに通って、わたしの聖なる名を汚している。
- 8 彼らは、すべての祭壇のそばで、質にとった衣服の上に横たわり、罰金で取り立てたぶどう酒を自分たちの神の宮で飲んでいる。
- 9 彼らの前からアモリ人を滅ぼし尽くしたのは、このわたしだ。彼らは杉の木のように背が高く、樺の木のように強かった。わたしは、その上の実も下の根も滅ぼし尽くした。
- 10 あなたがたをエジプトの地から連れ上り、四十年の間、荒野の中であなたがたを導き、アモリ人の地を所有させたのは、このわたしだ。
- 11 わたしが、あなたがたの息子たちから預言者を、あなたがたの若者からナジル人を起こしたのだ。そうではなかったか。イスラエルの子らよ。—主のことば—
- 12 しかし、あなたがたはナジル人に酒を飲ませ、預言者には『預言するな』と命じた。
- 13 見よ。このわたしが、あなたがたを押しつぶす。束を満載した荷車が押しつぶすように。
- 14 足の速い者も逃げ場を失い、強い者も力をふるえず、勇士も自分を救えない。
- 15 射手も立ちおおせず、足の速い者も逃れられず、騎手も自分を救えない。
- 16 勇士のうちの、心の強い者も、その日には裸で逃げるようになる。—主のことば。—

第3章

- 1 「イスラエルの子らよ、聞け。主があなたがたについて告げた、このことばを。わたしがエジプトの地から連れ上った、あなたがたすべての部族についてのことばを。
- 2 わたしは、地のすべての種族の中から、あなたがただけを選び出した。それゆえ、あなたがたのすべての咎のゆえにわたしはあなたがたを罰する。」
- 3 約束もしていないのに、二人の者が一緒に歩くだろうか。
- 4 獲物もないのに、獅子が森の中で吼えるだろうか。何も捕らえていないのに、若獅子がその洞穴で声をあげるだろうか。
- 5 畏も仕掛けられていないのに、鳥が地の鳥網にかかるだろうか。何も捕らえていないのに、鳥網が地面から跳ね上がるだろうか。
- 6 角笛が町で鳴らされたら、民は驚かないだろうか。町にわざわいが起こったら、主がそれをなされたのではないか。
- 7 まことに、神である主は、ご自分の計画を、そのしもべである預言者たちに示さずには、何事もなさない。
- 8 獅子が吼える。だれが恐れなくていられよう。神である主が語られる。だれが預言しないでいられよう。

- 9 「アシュドデの宮殿と エジプトの地の宮殿に告げよ。『サマリアの山々の上に集まり、その町の大きいなる混乱と、そのただ中の抑圧を見よ。』
- 10 彼らは正直に事を行うことを知らない。—主のことば— 彼らは自分たちの宮殿に、暴虐と暴行を宝物のように蓄えている。」
- 11 それゆえ、神である主はこう言われる。「敵が、この地を取り囲み、あなたの権威を地に落とす。あなたの宮殿はかすめ奪われる。」
- 12 主はこう言われる。「羊飼いが獅子の口から二本の足、あるいは耳たぶだけでも取り戻すように、サマリアに住むイスラエルの子らは、寝台の隅やダマスコの長椅子とともに救い出される。
- 13 聞け。ヤコブの家に証言せよ。—神である主、万軍の神のことば—
- 14 まことに、イスラエルの背きのゆえに わたしが彼の上に報いる日に、わたしはベテルの祭壇を罰する。その祭壇の角は折られ、地に落ちる。
- 15 わたしは冬の家と夏の家を打つ。象牙の家は滅び、大邸宅も消え失せる。—主のことば。」

第4章

- 1 このことばを聞け。サマリアの山にいるバシャンの雌牛どもよ。おまえたちは弱い者を虐げ、貧しい者を迫害し、自分の主人に「何か持って来て、飲ませよ」と言っている。
- 2 神である主は、ご自分の聖にかけて誓われる。「見よ、その時代がおまえたちに来る。おまえたちは釣り針にかけて引き上げられる。最後の一人までが、鋸で突かれる。
- 3 おまえたちは、城壁の破れ口からそれぞれまっすぐに出て行き、ハルモンに放り出される。—主のことば。
- 4 ベテルに行って背け。ギルガルに行って、ますます背け。朝ごとにあなたがたのいけにえを献げよ。三日ごとに十分の一を献げるがよい。
- 5 感謝のささげ物として、種入りのパンを焼き、進んで献げるものを布告し、ふれ知らせるがよい。イスラエルの子らよ、あなたがたはそうすることを好んでいる。—神である主のことば。
- 6 わたしは、あなたがたのすべての町で、あなたがたの歯を汚さず、すべての場所で、パンを欠乏させた。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。—主のことば—
- 7 わたしはまた、刈り入れまでなお三か月あるのに、あなたがたに雨をとどめた。ある町には雨を降らせ、ほかの町には雨を降らせなかった。ある畑には雨が降ったが、雨の降らなかった畑は乾ききった。
- 8 二、三の町は水を飲むために、よるめきながら一つの町に行った。しかし、満ち足りることはなかった。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった—主のことば。
- 9 わたしは立ち枯れと黒穂病で、あなたがたを打った。あなたがたの果樹園とぶどう畑、いちじくの木とオリーブの木が増えても、噛みいなごが食い荒らした。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。—主のことば—
- 10 わたしは、エジプトにしたように、疫病をあなたがたに送った。剣であなたがたの若者を殺し、あなたがたの馬を奪い去った。あなたがたの陣営に悪臭を上らせ、あなたがたの鼻をつくようにした。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。—主のことば—

- 11 わたしは、あなたがたをくつがえした。神がソドムとゴモラをくつがえしたように。あなたがたは、炎の中から取り出された燃えさしようになった。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。一主のことば。
- 12 それゆえイスラエルよ、わたしはあなたにこのようにする。わたしがあなたにこうするから、イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ。」
- 13 見よ、山々を形造り、風を創造した方。その御思いが何であるかを人間に告げる方。暁と暗闇を造り、地の高き所を歩まれる方。その名は万軍の神、主。

第5章

- 1 イスラエルの家よ、このことばを聞け。私はあなたがたについて哀歌を歌う。
- 2 おとめイスラエルは倒れて、二度と起き上がれない。彼女は自分の地に捨て置かれ、これを起こす者もない。
- 3 まことに、神である主はこう言われる。「イスラエルの家の、千人を出征させていた町には百人が残り、百人を出征させていた町には十人が残る。」
- 4 主はイスラエルの家にこう言われる。「わたしを求めて生きよ。
- 5 ベテルを求めな。ギルガルに行くな。ベエル・シェバに赴くな。ギルガルは必ず捕らえ移され、ベテルは無に帰するからだ。」
- 6 主を求めて生きよ。そうでないと、主は火のように、ヨセフの家に激しく下る。火はこれを焼き尽くし、ベテルにはそれを消す者がいなくなる。
- 7 彼らは、公正を苦よもぎに変え、正義を地に投げ捨てている。
- 8 すばるやオリオン座を造り、暗黒を朝に変え、昼を暗くして夜にし、海の水を呼び集めて、それを地の面に注ぐ方。その名は主。
- 9 主は、強い者を踏みにじり、要塞を破壊する。
- 10 彼らは門でさばきをする者を憎み、まっすぐに語る者を忌み嫌う。
- 11 あなたがたは貧しい者を踏みつけ、彼から小作料を取り立てている。それゆえ、切り石の家々を建てても、あなたがたはその中に住めない。麗しいぶどう畑を作っても、そのぶどう酒を飲めない。
- 12 私は、あなたがたの背きが多く、あなたがたの罪が重いことをよく知っている。正しい者を迫害する者、賄賂を受け取る者。彼らは門で、貧しい者を押しつけている。
- 13 それゆえ、このようなときには、賢い者は沈黙を守る。時が悪いからだ。
- 14 善を求めよ。悪を求めな。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたが言うように、万軍の神、主が、ともにいてくださる。
- 15 悪を憎み、善を愛し門で正しいさばきを行え。もしかすると、万軍の神、主はヨセフの残りの者をあわれんでくださるかもしれない。
- 16 それゆえ、主なる万軍の神、主はこう言われる。「すべての広場に嘆きが起こる。すべての通りで、人々は『ああ、ああ』と叫ぶ。農夫を呼んで来て泣かせ、泣き方を心得た者を呼んで来て嘆かせる。
- 17 すべてのぶどう畑に嘆きが起こる。それは、わたしがあなたがたの中を 通り過ぎるからだ。一主は言われる。」

- 18 ああ。主の日を切に望む者。主の日はあなたがたにとって何になるろう。それは闇であって、光ではない。
- 19 人が獅子の前を逃げて、熊が彼に会い、家の中に入っても、手で壁に寄りかかると、蛇が彼にかみつくようなものだ。
- 20 主の日は闇であって、光ではない。暗闇であって、そこには輝きはない。
- 21 「わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときの香りも、わたしはかぎたくない。
- 22 たとえ、あなたがたが、全焼のささげ物や 穀物のささげ物をわたしに献げても、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げても、わたしは目を留めない。
- 23 あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音を、わたしは聞きたくない。
- 24 公正を水のように、義を、絶えず流れる谷川のように、流れさせよ。
- 25 イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十年の間に、いけにえとささげ物を、わたしのところに携えて来たことがあったか。
- 26 あなたがたは自分たちの王シクテと自分たちの像キユン、自分たちのために造った神々の星を担いで来た。
- 27 わたしはあなたがたを、ダマスコのかなたへ捕らえ移す—その名が万軍の神である主が言われる。」

第6章

- 1 わざわいだ。シオンで安逸を貪る者、サマリアの山に信頼している者。イスラエルの家が頼って行く、国々の最高の首長たち。
- 2 カルネに渡って行って見よ。そこから大ハマテに行け。またペリシテ人のガテに下って行け。あなたがたはこれらの王国よりすぐれているのか。彼らの領土はあなたがたの領土より大きいのか。
- 3 あなたがたは、わざわいの日を遠ざけているつもりで、暴虐の時代を近づけている。
- 4 象牙の寝台に横たわり長椅子でからだを伸ばし、群れのうちから子羊を、牛舎の中から子牛を取って食べている者、
- 5 琴の音にのせて即興の歌を作り、ダビデに倣って自分たちの楽器を考え出す者。
- 6 彼らは鉢から酒を飲み、最上の香油を身に塗り、ヨセフの破滅のことで嘆き悲しむことがない。
- 7 それゆえ、今、彼らは最初の捕囚の民として引いて行かれる。大の字になった者どもの、甲いの酒宴は除かれる。
- 8 神である主は、ご自分にかけて誓われる。一万軍の神、主のことば—「わたしはヤコブの誇りを忌み嫌い、その宮殿を憎む。わたしはこの都と、その中のすべての者を引き渡す。」
- 9 たとえ、一つの家に残っても、彼らもまた死ぬ。
- 10 親戚の一人でこれを焼く者が、家から死体を持ち出すためにこれを取り上げ、その家の奥にいる人に向かって言う。「あなたのところには、まだいるか。」彼は言う。「だれもいない。」また言う。「口をつぐめ。主の名を口にするな。」

- 11 まことに、見よ、主は命じられる。「大きな家を打ち砕き、小さな家を粉々にせよ。」
- 12 馬が岩の上を走るだろうか。人がそこを牛で耕すだろうか。しかしあなたがたは、公正を毒に変え、正義の実を苦よもぎに変えた。
- 13 あなたがたは、ロ・ダバルを喜び、こう言う。「私たちは自分たちの力でカルナイムを取ったのではないかと。」
- 14 「しかし、イスラエルの家よ、今わたしは、あなたがたに敵対する一つの国を起こす。一万軍の神、主のことば― 彼らはレボ・ハマテからアラバの水無し川まで、あなたがたを虐げる。」

第7章

- 1 神である主は私に示された。見よ。王が刈り取った後の二番草が生え始めたころ、主はいなごを備えられた。
- 2 そのいなごが地の青草を食い尽くそうとしたとき、私は言った。「神、主よ。どうかお赦してください。ヤコブはどうして生き残れるでしょう。彼は小さいのです。」
- 3 主はこれを思い直された。そして「そのことは起こらない」と主は言われた。
- 4 神である主は私に示された。見よ、神である主は、責める火と呼ばれた。火は大いなる淵を呑み込み、割り当て地を焼き尽くそうとしていた。
- 5 私は言った。「神、主よ。どうかおやめください。ヤコブはどうして生き残れるでしょう。彼は小さいのです。」
- 6 主はこれを思い直された。そして「そのことも起こらない」と神である主は言われた。
- 7 主は私に示された。見よ。主は下げ振りを手に持って、下げ振りを使って築かれた城壁の上に立っておられた。
- 8 主は私に言われた。「アモス、何を見ているのか。」私が「下げ振りです」と言うと、主は言われた。「見よ。わたしは下げ振りを、わたしの民イスラエルの真ん中に垂れ下げる。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。
- 9 イサクの高き所は荒らされ、イスラエルの聖所は廃墟となる。わたしは剣をもって、ヤロブアムの家に向かって立ち上がる。」
- 10 ベテルの祭司アマツヤは、イスラエルの王ヤロブアムに人を遣わして言った。「アモスは、イスラエルの家のただ中で、あなたに謀反を企てています。この国は彼のどのことばも受け入れることができません。
- 11 アモスはこう言っています。『ヤロブアムは剣で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」
- 12 アマツヤはアモスに言った。「先見者よ。さあ、ユダの地へ逃げるがよい。そこでパンを食べ、その地で預言するがよい。
- 13 ベテルでは二度と預言するな。ここは王の聖所、王国の宮だからだ。」
- 14 アモスはアマツヤに答えた。「私は預言者ではなかったし、預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。
- 15 しかし、主が、群れの世話をしていたところから私を取り、主が私にこう言われた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。

- 16 今、主のことばを聞け。あなたは『イスラエルに向かって預言するな。イサクの家に向かって戯言を言うな』と言っている。
- 17 それゆえ、主はこう言われる。『あなたの妻は町で遊女となり、あなたの息子、娘たちは剣に倒れ、あなたの土地は測り縄で分割される。あなたは汚れた土地で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」

第8章

- 1 神である主は私に示された。そこには一かごの夏の果物があった。
- 2 主は言われた。「アモス。何を見ているのか。」私が、「一かごの夏の果物です」と言うと、主は私に言われた。「わたしの民イスラエルに終わりが来た。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。
- 3 その日には、神殿の歌声は悲鳴に変わる。—神である主のことば—多くの屍が、いたるところに投げ捨てられる。口をつぐめ。」
- 4 聞け。貧しい者たちを踏みつけ、地で苦しむ者たちを消し去ろうとする者よ。
- 5 あなたがたは言っている。「新月の祭りはいつ終わるのか。私たちは穀物を売りたいのだが。安息日はいつ終わるのか。麦を売りに出したいのだが。エパを小さくし、シェケルを重くし、欺きの秤で欺こう。
- 6 弱い者を金で買い、貧しい者を履き物一足分で買おう。屑麦を売ろう。」
- 7 主はヤコブの誇りにかけて誓われる。「わたしは、彼らのしていることをみな、いつまでも決して忘れない。
- 8 地はこのために震えないだろうか。地に住むすべての者は喪に服さないだろうか。地のすべてのものはナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように、うねっては沈まないだろうか。
- 9 その日には、—神である主のことば—わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする。
- 10 あなたがたの祭りを喪に変え、あなたがたの歌をすべて哀歌に変える。すべての腰に粗布をまとわせ、頭を剃らせる。その時をひとり子を失ったときの喪のように、その終わりを苦渋の日のようにする。
- 11 見よ、その時代が来る。—神である主のことば—そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。水に渴くでもない。実に、主のことばを聞くことの飢饉である。
- 12 彼らは海から海へと、北から東へとさまよい歩く。主のことばを探し求めて行き巡る。しかし、それを見出すことはない。
- 13 その日には、美しい若い女も、若い男も、渴きのために衰え果てる。
- 14 彼らは、サマリアの罪過にかけてこう誓う。『ダンよ、あなたの神は生きている。』『ベエル・シェバの道は生きている。』しかし、彼らは倒れて二度と起き上がれない。」

第9章

- 1 私は、祭壇の傍らに主が立っておられるのを見た。すると、主は言われた。「柱頭を打ちたたき、敷居が震えるようにせよ。すべての者の頭を打ち砕け。彼らのうち、生き残った者をわたしは剣で殺す。彼らのうち逃げられる者はなく、彼らのうち逃れられる者もない。
- 2 たとえ、よみに入り込んだとしても、わたしの手が、彼らをそこから引きずり出す。たとえ、天に上ったとしても、わたしが彼らをそこから引きずり降ろす。
- 3 たとえ、カルメルの頂に身を隠したとしても、わたしが彼らをそこから捜し出して捕まえる。たとえ、わたしの目を避けて海の底に身を隠したとしても、わたしが蛇に命じて彼らをそこでかませる。
- 4 たとえ、敵の捕虜となって行ったとしても、わたしが剣に命じてそこで彼らを殺させる。わたしは彼らの上に目を注ぐ。それは、わざわいのためであって、幸いのためではない。」
- 5 万軍の神、主が地に触れると、それは溶け去る。そこに住むすべての者は喪に服す。地のすべてのものは、ナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように沈む。
- 6 天に高殿を建て、地の上に丸天井を据え、海の水を呼んで、地の面に注がれる方、その名は主。
- 7 「イスラエルの子らよ。あなたがたは、わたしにとってクシュ人と同じではないのか。—主のことば— わたしは、イスラエルをエジプトの地から、ペリシテ人をカフトルから、アラムをキルから、連れ上ったではないか。
- 8 見よ。神である主の目が、罪深い王国に向けられている。わたしはこれを地の面から根絶やしにする。しかし、ヤコブの家を根絶やしにすることはない。—主のことば—
- 9 見よ。わたしは命じて、すべての国々の間で、イスラエルの家をふるいにかける。ふるっても、小石は地に落ちないようにする。
- 10 わたしの民の中の罪人はみな、剣で死ぬ。彼らは『わざわいは私たちに近づかない。私たちまでは及ばない』と言っている。
- 11 その日、わたしは倒れているダビデの仮庵を起こす。その破れを繕い、その廢墟を起こし、昔の日のようにこれを建て直す。
- 12 これは、エドムの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての国々を、彼らが所有するためだ。—これを行う主のことば。
- 13 見よ、その時代が来る。—主のことば— そのとき、耕す者が刈る者に追いつき、ぶどうを踏む者が種蒔く者に追いつく。山々は甘いぶどう酒を滴らせ、すべての丘は溶けて流れる。
- 14 わたしは、わたしの民イスラエルを回復させる。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。
- 15 わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。—あなたの神、主は言われる。」